



IPユニキャストルーティングの設定

- [IPユニキャストルーティングについて \(1 ページ\)](#)
- [IPユニキャストルーティングをイネーブルにする方法 \(5 ページ\)](#)
- [IPネットワークのモニタリングおよびメンテナンス \(13 ページ\)](#)
- [IPユニキャストルーティングの設定例 \(14 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(15 ページ\)](#)
- [IPユニキャストルーティングの機能情報 \(15 ページ\)](#)

IPユニキャストルーティングについて

このモジュールでは、デバイスでIPv4ユニキャストルーティングを設定する方法について説明します。



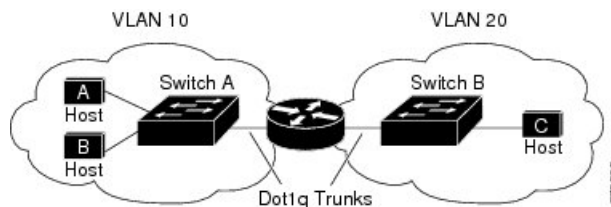
- (注) IPv4トラフィックに加え、IPv6ユニキャストルーティングをイネーブルにしてIPv6トラフィックを転送するようにインターフェイスを設定することもできます。

IPルーティングの概要

一部のネットワーク環境で、VLAN（仮想LAN）は各ネットワークまたはサブネットワークに関連付けられています。IPネットワークで、各サブネットワークは1つのVLANに対応しています。VLANを設定すると、ブロードキャストドメインのサイズを制御し、ローカルトラフィックをローカル内にとどめることができます。ただし、異なるVLAN内のネットワークデバイスが相互に通信するには、VLAN間でトラフィックをルーティング（VLAN間ルーティング）するレイヤ3デバイス（ルータ）が必要です。VLAN間ルーティングでは、適切な宛先VLANにトラフィックをルーティングするため、1つまたは複数のルータを設定します。

図 1: ルーティングトポロジの例

次の図に基本的なルーティングトポロジを示します。スイッチ A は VLAN 10 内、スイッチ B は VLAN 20 内にあります。ルータには各 VLAN のインターフェイスが備わっています。



VLAN 10 内のホスト A が VLAN 10 内のホスト B と通信する場合、ホスト A はホスト B 宛にアドレス指定されたパケットを送信します。スイッチ A はパケットをルータに送信せず、ホスト B に直接転送します。

ホスト A から VLAN 20 内のホスト C にパケットを送信する場合、スイッチ A はパケットをルータに転送し、ルータは VLAN 10 インターフェイスでトラフィックを受信します。ルータはルーティングテーブルを調べて正しい発信インターフェイスを判別し、VLAN 20 インターフェイスを経由してパケットをスイッチ B に送信します。スイッチ B はパケットを受信し、ホスト C に転送します。

ルーティングタイプ

ルータおよびレイヤ 3 スイッチは、次の方法でパケットをルーティングできます。

- デフォルトルーティング
- 事前にプログラミングされているトラフィックのスタティックルートの使用

スイッチは、スタティックルートとデフォルトルートをサポートします。IPv4 と IPv6 の両方のバージョンの RIP をサポートします。

スタティックユニキャストルート

スタティックユニキャストルートは、特定のパスを通過して送信元と宛先間でパケットを送受信するユーザ定義のルートです。ルータが特定の宛先へのルートを構築できない場合、スタティックルートは重要で、到達不能なすべてのパケットが送信される最終ゲートウェイを指定する場合に有効です。

ユーザによって削除されるまで、スタティックルートはスイッチに保持されます。ただし、アドミニストレーティブディスタンスの値を割り当て、スタティックルートをダイナミックルーティング情報で上書きできます。各ダイナミックルーティングプロトコルには、デフォルトのアドミニストレーティブディスタンスが設定されています（次の表を参照）。ダイナミックルーティングプロトコルの情報でスタティックルートを上書きする場合は、スタティックルートのアドミニストレーティブディスタンスがダイナミックプロトコルのアドミニストレーティブディスタンスよりも大きな値になるように設定します。

表 1: ダイナミックルーティングプロトコルのデフォルトのアドミニストレーティブディスタンス

ルートの送信元	デフォルト距離
接続されているインターフェイス	0
スタティックルート	1
EIGRP サマリールート	5
内部 EIGRP	90
IGRP	100
OSPF	110
RIP	120
不明	225

インターフェイスを指し示すスタティックルートは、RIP、IGRP、およびその他のダイナミックルーティングプロトコルを通してアドバタイズされます。**redistribute** スタティックルータコンフィギュレーションコマンドが、これらのルーティングプロトコルに対して指定されているかどうかは関係ありません。これらのスタティックルートがアドバタイズされるのは、インターフェイスを指し示すスタティックルートが接続された結果、静的な性質を失ったとルーティングテーブルで見なされるためです。ただし、**network** コマンドで定義されたネットワーク以外のインターフェイスに対してスタティックルートを定義する場合は、ダイナミックルーティングプロトコルに **redistribute** スタティックコマンドを指定しない限り、ルートはアドバタイズされません。

インターフェイスがダウンすると、ダウンしたインターフェイスを経由するすべてのスタティックルートが IP ルーティングテーブルから削除されます。転送ルータのアドレスとして指定されたアドレスへ向かう有効なネクストホップがスタティックルート内に見つからない場合は、IP ルーティングテーブルからそのスタティックルートも削除されます。

デフォルトのルートおよびネットワーク

ルータは、他のすべてのネットワークへのルートを学習できません。完全なルーティング機能を実現するには、一部のルータをスマートルータとして使用し、それ以外のルータのデフォルトルートをスマートルータ宛てに指定します（スマートルータにはインターネットワーク全体のルーティングテーブルに関する情報が格納されます）。これらのデフォルトルートは動的に学習できますが、ルータごとに設定することもできます。ほとんどのダイナミックな内部ルーティングプロトコルには、スマートルータを使用してデフォルト情報を動的に生成し、他のルータに転送するメカニズムがあります。

指定されたデフォルトネットワークに直接接続されたインターフェイスがルータに存在する場合は、そのデバイス上で動作するダイナミックルーティングプロトコルによってデフォルトルートが生成されます。RIP の場合は、疑似ネットワーク 0.0.0.0 がアドバタイズされます。

ネットワークのデフォルトを生成しているルータには、そのルータ自身のデフォルトルートも指定する必要があります。ルータが自身のデフォルトルートを生成する方法の1つは、適切なデバイスを経由してネットワーク 0.0.0.0 に至るスタティックルートを指定することです。

ダイナミックルーティングプロトコルによってデフォルト情報を送信するときは、特に設定する必要はありません。ルーティングテーブルは定期的にスキャンされ、デフォルトルートとして最適なデフォルトネットワークが選択されます。In Interior Gateway Routing Protocol (IGRP) ネットワークでは、システムのデフォルトネットワークの候補が複数存在する場合があります。Cisco ルータでは、デフォルトルートまたは最終ゲートウェイを設定するため、アドミニストレーティブディスタンスおよびメトリック情報を使用します。

ダイナミックなデフォルト情報がシステムに送信されない場合は、`ip default-network` グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用し、デフォルトルートの候補を指定します。このネットワークが任意の送信元のルーティングテーブルに格納されている場合は、デフォルトルートの候補としてフラグ付けされます。ルータにデフォルトネットワークのインターフェイスが存在しなくても、そこへのパスが格納されている場合、そのネットワークは1つの候補と見なされ、最適なデフォルトパスへのゲートウェイが最終ゲートウェイになります。

ルーティング情報プロトコル

Routing Information Protocol (RIP) は、小規模な同種ネットワーク間で使用するために作成された内部ゲートウェイプロトコル (IGP) です。RIP は、ブロードキャストUDP データパケットを使用してルーティング情報を交換するディスタンスベクトルルーティングプロトコルです。このプロトコルは RFC 1058 に文書化されています。RIP の詳細については、『*IP Routing Fundamentals*』（Cisco Press 刊）を参照してください。

デバイスはRIPを使用し、30秒ごとにルーティング情報アップデート（アドバタイズメント）を送信します。180秒以上を経過しても別のルータからアップデートがルータに届かない場合、該当するルータから送られたルートは使用不能としてマークされます。240秒後もまだ更新がない場合、ルータは更新のないルータのルーティングテーブルエントリをすべて削除します。

RIP では、各ルートの値を評価するためにホップカウントが使用されます。ホップカウントは、ルート内で経由されるルータ数です。直接接続されているネットワークのホップカウントは0です。ホップカウントが16のネットワークに到達できません。このように範囲（0～15）が狭いため、RIP は大規模ネットワークには適していません。

ルータにデフォルトのネットワークパスが設定されている場合、RIP はルータを疑似ネットワーク 0.0.0.0 にリンクするルートをアドバタイズします。0.0.0.0 ネットワークは存在しません。RIP はデフォルトのルーティング機能を実行するためのネットワークとして、このネットワークを処理します。デフォルトネットワークがRIPによって学習された場合、またはルータにラストリゾートゲートウェイがあり、RIP がデフォルトのメトリックによって設定されている場合、デバイスはデフォルトネットワークをアドバタイズします。RIP は指定されたネットワーク内のインターフェイスにアップデートを送信します。インターフェイスのネットワークを指定しなければ、RIP のアップデート中にアドバタイズされません。

RIPのデフォルト設定

表 2: RIPのデフォルト設定

機能	デフォルト設定
自動サマリー	イネーブル
デフォルト情報送信元	ディセーブル
デフォルトメトリック	自動メトリック変換 (組み込み)
IP RIP 認証キーチェーン	認証なし 認証モード: クリア テキスト
IP RIP の起動	ディセーブル
IP スプリット ホライズン	メディアにより異なる
Neighbor	未定義
ネットワーク	指定なし
オフセット リスト	ディセーブル
出力遅延	0 ミリ秒
タイマー基準	<ul style="list-style-type: none"> • 更新: 30 秒 • 無効: 180 秒 • ホールドダウン: 180 秒 • フラッシュ: 240 秒
アップデート送信元の検証	イネーブル
バージョン	RIP バージョン 1 およびバージョン 2 パケットを受信し、バージョン 1 パケットを送信します。

IPユニキャストルーティングをイネーブルにする方法

デフォルトでは、IP ルーティングはデバイス上でディセーブルです。

この手順では、指定されたインターフェイスをスイッチ仮想インターフェイス (SVI) にすることができます。これは、**interface vlan *vlan_id*** コマンドを使用して作成された VLAN インターフェイスまたは **interface *type number*** コマンドを使用して作成された物理ポートインターフェ

イスであり、デフォルトではレイヤ3インターフェイスです。ルーティングが発生するすべてのレイヤ3インターフェイスに、IPアドレスを割り当てる必要があります。



(注) デバイスでは、16のスタティックルート（ユーザ設定のルートとデフォルトルートを含む）と、管理インターフェイスの直接接続されたルートとデフォルトルートがサポートされています。

ルーティングを設定する手順は次のとおりです。

- VLANインターフェイスをサポートするために、デバイスでVLANを作成および設定し、レイヤ2インターフェイスにVLANメンバーシップを割り当てます。
- レイヤ3インターフェイスを設定します。
- デバイスでIPルーティングをイネーブルにします。
- レイヤ3インターフェイスにIPアドレスを割り当てます。
- スタティックルートを設定します。

IPユニキャストルーティングのイネーブル化

デフォルトで、デバイスはレイヤ2スイッチングモード、IPルーティングはディセーブルになっています。デバイスのレイヤ3機能を使用するには、IPルーティングをイネーブルにする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ3	ip routing 例： Device(config)# ip routing	IPルーティングをイネーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

IP アドレスの SVI への割り当て

IP ルーティングを設定するには、IP アドレスをレイヤ 3 ネットワーク インターフェイスに割り当てる必要があります。これにより、IP を使用するインターフェイスでホストとの通信が可能になります。IP ルーティングはデフォルトでディセーブルであり、IP アドレスは SVI に割り当てられていません。

IP アドレスは IP パケットの送信先を特定します。一部の IP アドレスは特殊な目的のために予約されていて、ホスト、サブネット、またはネットワークアドレスには使用できません。RFC 1166 の『Internet Numbers』には IP アドレスに関する公式の説明が記載されています。

インターフェイスには、1 つのプライマリ IP アドレスを設定できます。マスクで、IP アドレス中のネットワーク番号を示すビットが識別できます。マスクを使用してネットワークをサブネット化する場合、そのマスクをサブネット マスクと呼びます。割り当てられているネットワーク番号については、インターネット サービス プロバイダーにお問い合わせください。

SVI に IP アドレスおよびネットワーク マスクを割り当てるには、以下の手順に従います。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface vlan vlan-id 例： Device(config)# interface vlan 1	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 3 VLAN を指定します。
ステップ 4	ip address ip-address subnet-mask 例：	IP アドレスおよび IP サブネット マスクを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config-if)# ip address 10.1.5.1 255.255.255.0	
ステップ 5	end 例： Device(config-if)# end	インターフェイスコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	show interfaces vlan [vlan-id] 例： Device# show interfaces vlan 4	デバイスで設定されたすべての VLAN インターフェイスの統計情報を表示します。

スタティックユニキャストルートの設定

スタティックユニキャストルートは、特定のパスを通過して送信元と宛先間でパケットを送受信するユーザ定義のルートです。ルータが特定の宛先へのルートを構築できない場合、スタティックルートは重要で、到達不能なすべてのパケットが送信される最終ゲートウェイを指定する場合に有効です。

スタティックルートを設定するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none">パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	ip route prefix mask {address interface} [distance] 例： Device(config)# ip route prefix mask gigabitethernet 1/0/4	スタティックルートを確立します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show ip route 例： Device# show ip route	設定を確認するため、ルーティングテーブルの現在の状態を表示します。

次のタスク

スタティックルートを削除するには、**no ip route prefix mask {address| interface}** グローバル コンフィギュレーションコマンドを使用します。ユーザによって削除されるまで、スタティックルータはデバイスに保持されます。

デフォルトのルートおよびネットワークの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ip route network number 例： (config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.10.10.2	デフォルトネットワークを指定します。
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show ip route 例：	最終ゲートウェイで選択されたデフォルトルータを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device# show ip route	

基本的な RIP パラメータの設定

RIP を設定するには、ネットワークに対して RIP ルーティングをイネーブルにします。他のパラメータを設定することもできます。デバイスでは、ネットワーク番号を設定するまで RIP コンフィギュレーション コマンドは無視されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ip routing 例： Device(config)# ip routing	IP ルーティングをイネーブルにします。（IP ルーティングがディセーブルになっている場合だけ、必須です）。
ステップ 4	router rip 例： Device(config)# router rip	RIP ルーティングプロセスをイネーブルにして、ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	network network number 例： Device(config-router)# network 10.0.0.0	ネットワークを RIP ルーティングプロセスと関連付けます。複数の network コマンドを指定できます。RIP ルーティングアップデートの送受信は、これらのネットワークのインターフェイスを経由する場合だけ可能です。 (注) RIP コマンドを有効にするには、ネットワーク番号を設定する必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	neighbor ip-address 例 : Device (config-router) # neighbor 10.2.5.1	(任意) ルーティング情報を交換する隣接ルータを定義します。このステップを使用すると、RIP (通常はブロードキャストプロトコル) からのルーティングアップデートが非ブロードキャストネットワークに到達するようになります。
ステップ 7	offset-list [access-list number name] {in out} offset [type number] 例 : Device (config-router) # offset-list 103 in 10	(任意) オフセットリストをルーティングメトリックに適用し、RIP によって取得したルートへの着信および発信メトリックを増加します。アクセスリストまたはインターフェイスを使用し、オフセットリストを制限できません。
ステップ 8	timers basic update invalid holddown flush 例 : Device (config-router) # timers basic 45 360 400 300	(任意) ルーティングプロトコルタイマーを調整します。すべてのタイマーの有効範囲は 0 ~ 4294967295 秒です。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>update</i> : ルーティングアップデートの送信間隔。デフォルトは 30 秒です。 • <i>invalid</i> : ルートが無効と宣言されるまでの時間。デフォルト値は 180 秒です。 • <i>holddown</i> : ルートがルーティングテーブルから削除されるまでの時間。デフォルト値は 180 秒です。 • <i>flush</i> : ルーティングアップデートが延期される時間。デフォルトは 240 秒です。
ステップ 9	version {1 2} 例 : Device (config-router) # version 2	(任意) RIP バージョン 1 または RIP バージョン 2 のパケットだけを送受信するようにスイッチを設定します。デフォルトの場合、スイッチではバージョン 1 および 2 を受信しますが、バージョン 1 だけを送信します。インターフェイスコマンド ip rip {send receive} version 1 2 1 2 を使用し、インターフェイスでの送受信に使用する

	コマンドまたはアクション	目的
		バージョンを制御することもできます。
ステップ 10	no auto summary 例： Device(config-router)# no auto summary	(任意) 自動要約をディセーブルにします。デフォルトでは、クラスフルネットワーク境界を通過するときにサブプレフィックスがサマライズされます。サマライズをディセーブルにし (RIP バージョン 2 だけ)、クラスフルネットワーク境界にサブネットおよびホストルーティング情報をアドバタイズします。
ステップ 11	end 例： Device(config-router)# end	ルータ コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 12	show ip protocols 例： Device# show ip protocols	アクティブルーティングプロトコルプロセスのパラメータと現在の状態を表示します。

RIP 認証の設定

RIP バージョン 1 は認証をサポートしていません。RIP バージョン 2 のパケットを送受信する場合は、インターフェイスで RIP 認証をイネーブルにできます。インターフェイスで使用できる一連のキーは、キーチェーンによって指定されます。キーチェーンが設定されていないと、デフォルトの場合でも認証は実行されません。

RIP 認証がイネーブルであるインターフェイスでは、プレーンテキストと MD5 という 2 つの認証モードがサポートされています。デフォルトはプレーンテキストです。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	configure terminal 例：	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device# configure terminal	
ステップ 3	interface interface-id 例 : Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	ip rip authentication key-chain name-of-chain 例 : Device(config-if)# ip rip authentication key-chain trees	RIP 認証をイネーブルにします。
ステップ 5	ip rip authentication mode {text md5} 例 : Device(config-if)# ip rip authentication mode md5	プレーン テキスト認証 (デフォルト) または MD5 ダイジェスト認証を使用するように、インターフェイスを設定します。
ステップ 6	end 例 : Device(config-if)# end	インターフェイスコンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

IP ネットワークのモニタリングおよびメンテナンス

特定の統計情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

表 3: IP ルートの削除またはルートステータスの表示を行うコマンド

コマンド	目的
show ip route [address [mask] [longer-prefixes]]	ルーティング テーブルの現在の状態を表示します。
show ip route summary	サマリー形式でルーティング テーブルの現在のステータスを表示します。

IPユニキャストルーティングの設定例

例：IPユニキャストルーティングのイネーブル化

次に、IPユニキャストルーティングをイネーブルにする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip routing
Device(config)# end
```

例：IPアドレスのSVIへの割り当て

次に、SVIにIPアドレスおよびネットワークマスクを割り当てる例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface vlan 4
Device(config-if)# ip address 10.1.5.1 255.255.255.0
Device(config-if)# exit
Device# show interfaces vlan 4
```

例：スタティックユニキャストルートの設定

スタティックユニキャストルートの設定例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip route prefix mask gigabitethernet 1/0/4
Device(config)# end
Device# show ip route
```

例：ルーティングテーブルの現在のステータスの表示

次に、`show ip route` コマンドの出力例を示します。

```
Device# show ip route

Codes: L - local, C - connected, S - static, R - RIP, M - mobile, B - BGP
D - EIGRP, EX - EIGRP external, O - OSPF, IA - OSPF inter area
N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 - OSPF NSSA external type 2
E1 - OSPF external type 1, E2 - OSPF external type 2
i - IS-IS, su - IS-IS summary, L1 - IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2
ia - IS-IS inter area, * - candidate default, U - per-user static route
o - ODR, P - periodic downloaded static route, H - NHRP, l - LISP
a - application route
+ - replicated route, % - next hop override, p - overrides from PFR
```

```

Gateway of last resort is 192.0.2.5 to network 0.0.0.0

S* 0.0.0.0/0 [0/0] via 192.0.2.5
10.0.0.0/8 is variably subnetted, 2 subnets, 2 masks
C 10.3.3.0/24 is directly connected, GigabitEthernet1/0/23
L 10.3.3.2/32 is directly connected, GigabitEthernet1/0/23
172.16.0.0/24 is subnetted, 1 subnets
S 172.16.0.1 [1/0] via 192.0.2.5
10.0.0.0/8 is variably subnetted, 2 subnets, 2 masks
C 192.0.2.4/24 is directly connected, Vlan1
L 192.0.2.10/24 is directly connected, Vlan1
209.165.201.0/24 is subnetted, 1 subnets
S 209.165.201.1 [1/0] via 192.0.2.5
Device#

S -- Stand for static route.

```

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
この章で使用するコマンドの完全な構文および使用方法の詳細。	Consolidated Platform Command Reference, Cisco IOS Release 15.2(7)Ex (Catalyst 1000 Switches)

シスコのテクニカルサポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	http://www.cisco.com/support

IP ユニキャストルーティングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだ

けを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 4: IPユニキャストルーティングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPユニキャストルーティング	Cisco IOS Release 15.2(7)E1	この機能が導入されました。